

景気ウォッチャー調査 (沖縄地域) ～2025年10月調査～

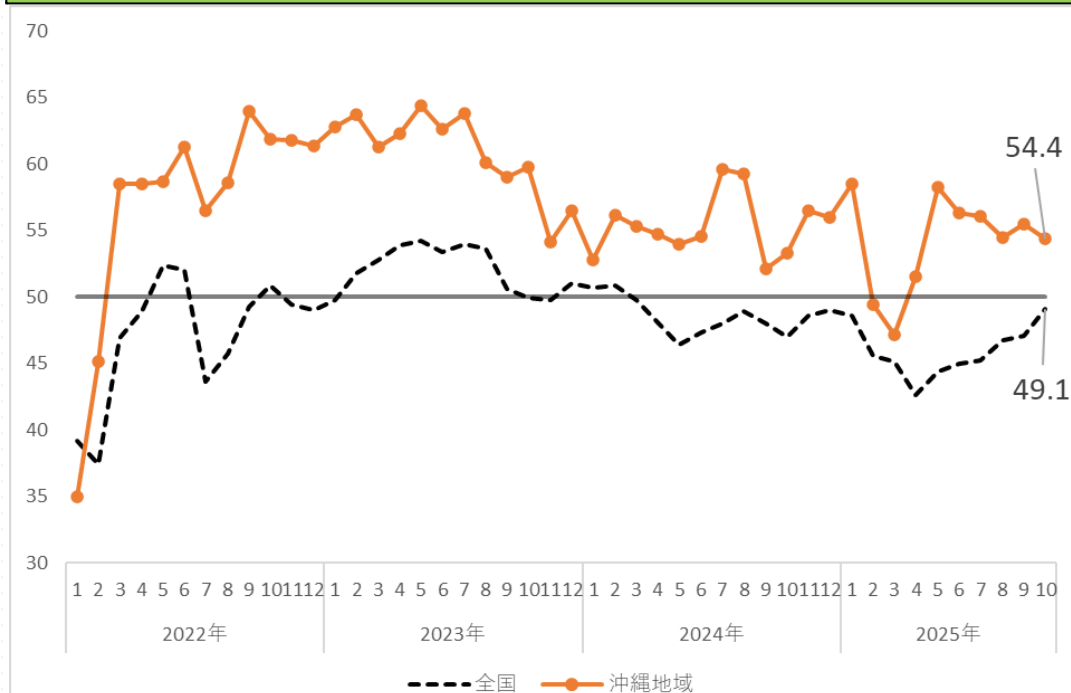
現状：観光は好調だが県内需要は足踏み
先行き：年末に向けた需要拡大の期待が大きい

一般財団法人 南西地域産業活性化センター

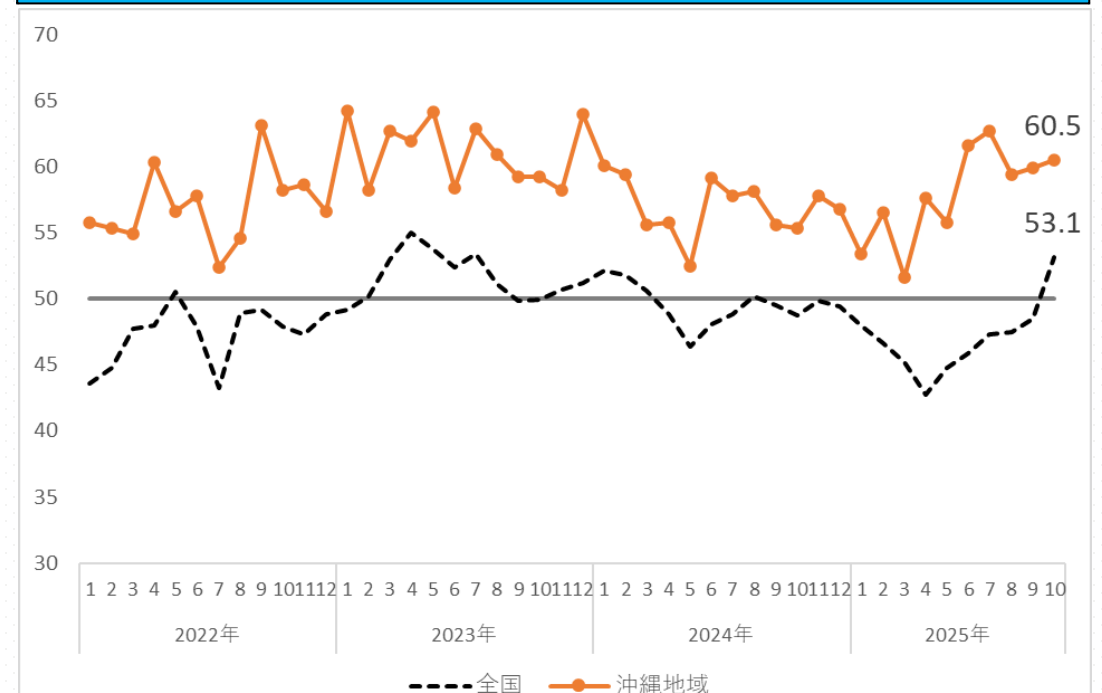
2025年10月調査DI値（季節調整値）

- 現状判断DIは、前月比1.1ポイント減少の**54.4**となったが、好不調の判断基準となる50を上回り好況である。
- 先行き判断DIは、前月比0.6ポイント増加の**60.5**と2か月連続の上昇となり、判断基準の50を上回っていることから2～3か月後の景気動向も好況が続く見通しである。
- なお、全国の現状判断DI値は49.1、先行き判断のDI値は53.1と共に前月比で上昇している。また、先行き判断DI値では、家計動向関連、企業動向関連、公用関連のすべてのDI値が上昇したことで、判断基準となる50を上回り、好況の見通しである。

現状判断DI値（季節調整）



先行き判断DI値（季節調整）



現状判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、観光需要は好調であり、百貨店や衣料品専門店、観光名所などでインバウンドがみられている。特に百貨店のコメントでみられた、アジア圏からのインバウンドは、国慶節(中国の大型連休)の影響により増加したと考えられる。
- また、家電量販店では、OSサービス終了に伴いパソコン需要が増加しており、「やや良くなっている」と判断されている。一方、他業種では、県内客が減少傾向にあり、特に通信会社では物価上昇によって購買意欲の鈍化していることから、県内需要の足踏みがみられる。

<家計動向関連>

◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている

○	百貨店	・ 地元客に加えて、アジア圏からのインバウンドが多く来店している。
○	家電量販店	・ 前年の省エネ家電買換えキャンペーンによる反動減から、売上が回復傾向にある。また、パソコンのOSサポート終了により、パソコンの需要が大きく伸長している。
□	衣料品専門店	・ 国内客やインバウンドは、3か月前と比べても変わらず来店しているが、県内客は減少傾向にある。
▲	通信会社	・ 物価上昇の影響により、来客数や購買意欲がやや鈍化している。加えて、新型スマートフォンの入荷待ちが続いていることが、販売機会損失の一因となり、3か月前と比較して景気はやや悪化している。
▲	観光名所	・ 9月より来客数が減少傾向にある。インバウンドの落ち込みは感じないが、地元客の入園者数の減少が大きくなっている。

現状判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、建設業において受注が順調であるなど「やや良くなっている」。一方、他業種では、受注に変化がないなど「変わらない」との判断が多く、足踏みがみられる。
- 「雇用関連」では、専門学校において、例年求人を出している企業のうち、一部では求人を控える動きがみられるものの、2027年卒向けの求人は増加している。他方で、求人情報誌によると、最低賃金引き上げの影響による採用の手控えがみられるなど、「やや悪くなっている」との判断もみられた。
- 人材派遣会社から求人と求職者の条件の不一致による雇用のミスマッチが継続して発生している状況が確認されており、景気は「変わらない」とみられている。

<企業動向関連>		◎：良くなっている、○：やや良くなっている、□：変わらない、▲：やや悪くなっている、×：悪くなっている
○	建設業	・ 受注に関しては順調である。他社の手持ち工事も多くあるとみている。
□	窯業土石業	・ 受注は特に変化なく、製造も横ばいの状況である。

<雇用関連>	
○	学校【専門学校】
□	人材派遣会社
▲	求人情報誌
・ 2027年卒向け求人数が増えてきている。例年、求人を出している一部の企業から、求人が出ていない状況もあるため、総合的にやや良いとみている。	
・ 求人に対して、求職者との条件が合わず、なかなかマッチングにつながらない。求職者の動きが読めない。	
・ コンビニや飲食、観光業、サービス業などで求人数が一服している。時期的な採用需要が落ち着いたほか、最低賃金引き上げを懸念した採用の手控えもみられる。	

先行き判断のコメント①

- 「家計動向関連」では、業種を問わず、年末の需要増加や観光需要の増加を期待するコメントが多くみられている。特に、乗用車販売店や通信会社では、年末にかけて需要が回復する見通しを持つなど、県内需要の増加も期待されている。
- 一方、スーパーでは、9月に電気・ガス料金支援が終了し、お米、鶏卵など食料品の値上げが続くことで、家計負担が増加するとの見通しがみられる。ただし、年末に消費が活性化することで2～3か月先の景気は「変わらない」との判断や、大手競合店との価格競争が厳しく、「やや悪くなる」との見通しもあることから、スーパーによって判断が異なる。

<家計動向関連>

◎：良くなる、○：やや良くなる、□：変わらない、▲：やや悪くなる、×：悪くなる

○	コンビニ	・ 年度末にいろいろなイベントが計画されているため、来客数も増えると期待される。
○	乗用車販売店	・ 6月以降は販売台数が落ち込んでいるが、例年どおり年末年始にかけて新規来客数が増えるため、販売台数の回復が期待される。
○	その他飲食店 [ファーストフード]	・ 年末年始にかけて国内外観光客、地元客の流動的な影響が強くなるため今月よりも良くなるとみている。
○	通信会社	・ 物価高や端末供給の不安定さなど一時的な要因はあるものの、年末商戦や新機種種の安定供給が見込まれることから、今後2～3か月の景気は今月よりも緩やかに回復する見通しである。
□	スーパー	・ 9月に電気・ガス料金支援が終了し、食料品の値上げが続く、家計負担が増加することで、先行きに不透明感が残る。年末商戦に向けた消費の活性化が景気を下支えすることで、全体的に2～3か月先の景気は、変わらないとみている。
▲	スーパー	・ 米卸値の下落がみえず、鶏卵相場も上昇の気配がある。そのため、家計の節約志向は年末に向けてますます強まるとみている。また、大手競合店の動向も気になる。スケールメリットで劣る分、価格競争に陥ると厳しいとみている。

先行き判断のコメント②

- 「企業動向関連」では、建設業において工事の引き合いが続くなど、「やや良くなる」との判断がみられている。また、食料品製造業のように景気に大きな変化がみられず、中小企業などは厳しい経営環境が続くなど、他の回答者からも「変わらない」との判断が多くみられている。
- 「雇用関連」では、2027年卒の学生確保に向けた説明会の問合せや、学生のインターンシップ参加など新卒の雇用関連の動きが活発であることから、「やや良くなる」との判断となっている。
- 一方、人材派遣会社などからは、求人を募集しても求職者からの反応が鈍いなど、人手不足感が続くとの見通しに加えて、最低賃金の引き上げと物価高騰による雇用への影響を懸念していることから、「やや悪くなる」との判断もみられる。

<企業動向関連>

◎：良くなる、○：やや良くなる、□：変わらない、▲：やや悪くなる、×：悪くなる

○	建設業	• まだ工事の引き合いがあり、当分続くのではないかとみられる。
□	食料品製造業	• 現在のところ、景気に大きな変化がみられる要因もなく、引き続き中小企業にとっては厳しい経営環境が続くとみている。

<雇用関連>

○	学校	• 現在2027年卒向け学内説明会の問合せが非常に多く、合わせて求人票が届くことが見込まれる学生の動きも活発であり、特に4年制課程の学生は積極的にインターンシップに参加し、早期選考に臨んでいるため内々定を受ける学生も多くなるとみられる。
▲	人材派遣会社	• 求人を募集しても求職者の反応は鈍く、人手不足感は続くとみている。また、最低賃金の引上げや、物価高騰による影響が大きくなるとみている。

<用語の説明>

【景気ウォッチャー調査】

- 地域の景気を観察できる立場にある人々から、統計指標だけでは把握できない顧客の様子など日々感じている街角の景気動向を迅速に把握するため、毎月実施されている調査。

【DI値】

- 物価などの景気変動に関する複数の指標から、景気の方方向性や各経済分野への波及度合いを示す。値が50を上回ると景気が好況傾向にあり、50を下回ると不況傾向にある。

【季節調整値】

- 季節的な要因で毎年同じような動きをするもの（夏になるとアイスクリームが沢山売れるなど）があることから、前月や前々月と比較する際に季節的な要因を除いた数値。

【現状判断(景気の方方向性)】

- 3か月前の景気状況と比較した、今月の身の回りの景気の具体的な状況などの説明。

【先行き判断】

- 2～3か月先の身の回りの景気を今月の景気と比較した際の判断理由。

※本資料は、2025年11月11日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」をもとに作成しています。詳細な結果は下記URLからご確認ください。
<https://www5.cao.go.jp/keizai3/2025/1111watcher/menu.html>